

墓石に読む初代校長山口 萬氏と令嬢智恵子さん

下の写真は山口 萬初代校長の墓である。

場所は北鎌倉円覚寺境内の本堂右手の墓地で、ひときわ大きな墓石と一對の春日型石灯籠が建てられているので、比較的わかりやすい。



墓石右側面には、つね夫人の手になる細かい故人来歴が刻まれている（右掲）。

それによれば、山口校長は煤ヶ谷（神奈川県愛甲郡清川村）出身で、広島高等師範学校教育科に学び、弱冠27歳で京都市中京区生祥小学校長及び教員養成所初代主事兼京都市視学官という重責を担った。

5年間の京都勤務の後、32歳で故郷の神奈川県に戻って、関東大震災直後の鎌倉に移り、鎌倉郡立鎌倉尋常高等小学校（現鎌倉市立第一小学校）長として震災復興にあたった。

そして1928（昭和3）年、同校の施設内に鎌倉高校の前身にあたる鎌倉町立実科高等女学校が併設されるにあたり、その初代校長も兼務することになるのである。

さらに1933（昭和8）年12月、前々年廃止され、鎌倉町に払い下げられた鎌倉御用邸跡地に開校した鎌倉郡立御成尋常高等小学校の初代校長に任命され、同校の施設内に鎌倉町立実科高等女学校が併設されることになったため、鎌倉実科高等女校長兼務は続けられた。

この功績により、山口校長は「高等官勲五等待遇従六位」に叙せられた。

1938（昭和13）年9月、後任を守屋貴雅氏に委ね、46歳で東京都私立大森徒弟学校（正確には大森機械工業徒弟学校）主事となった。

つね夫人は「京都の五年は愉しく鎌倉の五年は懐し。」と振り返る。

日中戦争から太平洋戦争へと風雲急を告げる

山口萬 煤ヶ谷に生る。独力にて広島高等師範教育科卒業廿七才の若きにて京都市中京区生祥小学校校長教員養成所初代主事兼市視学委員を経廿二才にて関東大震災直後の鎌倉小学校校長に轉任復興に盡瘁し実科高等女併設に當り同校長兼務。御成小学校初代校長兼実科高等女長高等官五等待遇従六位に叙せらる。京都の五年は愉しく鎌倉の十五年は懐し。四十六才にて東京都私立大森徒弟学校主事學制改革後工業高等學校長となり創立當初より十六年間に職教育經營あらゆる面の苦闘は筆舌に盡し難く殊に大東亜戦禍後は廢校のやむなきに觀えたるも焦土に立ち上り血涙を絞り痛ましき日々を強き忍耐と誠実一路に邁進只管内容形式共に充實を計り漸く成果著れ軌道に乗りたる時病み昭和廿九年六月廿八日六十二才にて歿す。萬感胸に迫る「残念だなあ」の一語噫悼まじきかな。四十三年の教職中新設校四復興校二の長として多大の業績をあげたり。おお君と共に四十年、仰ぎ見る偉大なる師父天地の果敢比類なき清き愛情絶對の信頼を持せる強く大いなる手筈之至上至寶と慕び日々感涙と共に拜す。永く子孫に語り傳へ遺徳を稱えまつり厚恩に報い奉る。謹妻つね文書す。山口智恵子 萬二女東京府立第六高女。東京女子高等師範理科卒業。府立第六鎌倉市立高女教諭父に似趣味高尚性温和。昭和廿三年二月二日廿六才にて歿す。噫

中、軍需産業の拠点となっていた大森区の中小機械工場の経営者が協力して、工員養成のために1939（昭和14）年に開校させたのが全寮制の男子校、大森機械工業徒弟学校である。同校は1942（昭和17）年には大森工業学校となり、戦後すぐに電気通信科を設けた。

学制改革後は大森工業高等学校となり、この段階から山口氏は校長に就任したようである。

創立当初より16年間に在職し、戦中戦後の難局を乗り越えてようやく軌道に乗った矢先に氏は病に倒れ、「残念だなあ」の一言を遺し他界された。1954（昭和29）年6月28日、享年62。

なお、大森工業高校は2005（平成17）年度より共学の普通科を設置し、大森学園高等学校と改名して今日に至っている。

墓誌の最後の2行に父に先立った二女の山口智恵子さんについて記されている。

智恵子さんは東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大）理科を卒業後、母校の東京府立第六高女（現都立三田高校）を経て、若き父が育てた鎌倉市立高等女学校の教壇に立ち、1948（昭和23）年2月2日、26歳で夭折された。